

2016年G7伊勢志摩サミットに向けた世界人口開発議員会議（GCPPD2016） フォローアップ会合開催

4月26～27日に、国際人口問題議員懇談会（JFPF）人口と開発に関するアジア議員フォーラム（AFPPD）の共催で開催された「2016年G7伊勢志摩サミットに向けた世界人口開発議員会議（GCPPD2016）」には、64か国・地域から地域議連を代表する国会議長・国会議員が140人を超えて参集し、国際機関、専門家、そして国内から延べ600人が参加しました。

G7伊勢志摩サミットが5月26～27日に開催されたのを受け、6月7日にGCPPDフォローアップ会合を開催しました。会議にご協力いただいたJFPFメンバーをはじめ、省庁、市民社会代表の方々が参加し、GCPPDの成果を共有し、今後の方策について活発な意見交換を行いました。



武見敬三 JFPF 幹事長/AFPPD 議長

皆様のご協力のおかげでGCPPDが大成功を収めることができ、心より感謝致しております。GCPPDがG7伊勢志摩サミットに貢献を果たしただけでなく、人口・開発会議として、女性問題に加え、高齢化や若者への投資といったテーマを柱として、日本から発信することができました。また市民社会の方々にご協力をいただき、また本格的に関わっていただき、会議全体が大いに活気づきました。これを1つの大きなきっかけとして、今後こうした課題を、その都度適切なテーマを専門的に整理して企画をするような形で、継続的なものにしていきたいと思っております。是非、この超党派の議連を通じて、多くの先生方のご支援を得られる形で実行したいと思っておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

阿部俊子 JFPF 副幹事長

サブセッション1の運営に当たり、医療従事者が、エボラ熱、HIV等の患者のケアをしながら、危機にさらされている実態、また残された家族のサポートづくりに焦点を当てて、活発な議論を行いました。



竹若敬三 外務省国際協力局審議官（地球規模課題担当）

G7伊勢志摩サミットのコミュニケ全32ページ中、8分の1となる4ページを保健が占めました。これだけ保健がサミットで大きく取り上げられたのも、GCPPDで非常に貴重なご提言をいただき、ご支持をいただいたおかげです。

吉岡てつを 内閣官房内閣審議官（新型インフルエンザ等対策室長・エボラ出血熱対策室長・国際感染症対策調整室長）

GCPPD との連携により、今回の G7 伊勢志摩サミットで緊急事態に国際社会が連携して対処する仕組みを作ることができたのは、何よりも大きな成果でした。また、薬剤耐性（AMR）の問題についても、日本が主導的な役割を発揮できました。



小池百合子 JPFP 副会長

参加したボリビアの 25 歳の上院議員の女性が印象的でした。ボリビアの女性議員の比率は、クォーター制を取り入れてない中で 51% もあり、ルワンダに次いで 2 番目に高い比率です。G7 の宣言でも、女性の活躍を謳っていますが、一番肝心な意思決定の場に女性の数が少ないこと、これを何とかしなければいけないと思います。また、医療・保健分野では、保健と教育をワンセットで取り組むことが重要です。

長浜博行 JPFP 副会長

援助国が ODA を供与する際にも、途上国がそれを受け入れる際にも、国民に対し透明性を持って説明責任を果たしていくうえで、国会議員の役割は大変重要です。これまでの JPFP 活動を通じて、ザンビアやいくつかの国で ODA の国会報告の法制化がなされるなど、大きな進捗が果たされています。地味な活動ですが、GCPPD でも国会議員が ODA に関与する重要性を、世界の国会議員と共有できたと思います。



逢沢一郎 JPFP 会長代行

タイミングといい、参加者の数といい、テーマの絞り込みといい、どれをとっても画期的な会議でした。私自身も難民やアフリカ、感染症と、様々な問題に携わっておりますが、人口という、1 つの切り口からいろいろな分野に入り込むことができます。MDGs から SDGs の 15 年に突入をしたわけですが、議員の立場から世の中の変化を世界に中に広めていく、それも日本の役割の 1 つだと思います。そしてそれに取り組める予算を動員できるようにしていかなければならないと考えています。



奥野信亮 議員

人口問題は非常に重要であり、女性が活躍できる社会を作ること、世界で見ても大事なことで、日本としては、もっと積極的に推進しなければならないというのが、私の信念です。

今回の会議では、参加国と参加者の数がべらぼうに多かったというのが印象的でした。欲を言えば、もう少し時間をうまく配分していたらと思いました。是非今後はそういったことも対処していただければと思います。



松本剛明 議員

議員外交として、しっかりとした問題解決型の活動を発展させ、このような枠組みを、各国の政府の予算や制度に反映できるようにし、また国際社会の中でも予算や制度に反映できるようにしていくために、我々の役割が大きいことを痛切に感じております。議員が交流する中から、本当に学ぶことは数多くあるということも、改めて感じました。

石井澄江 ジョイセフ理事長

サブセッション2の運営に当たり、保健、若者、環境、難民について、それぞれの日本のNGOからの提起があり、それに対して、各国、各地域の国会議員の代表から、国会議員としてできる役割についてご示唆をいただきました。市民社会の方からは、こういう機会はなかなかないので、大変良い機会を持てた、という声があり、各地域の国会議員からは、それぞれ自分たちができる役割について、大変活発な議論ができて良かったという感想がありました。

稲場雅紀 「動く→を動かす」事務局長

GCPPDは、国会議員の皆様方、行政の皆様方、そして市民社会が一体となって、しっかり連携でき、非常にベストな形になったと思います。市民社会としても、こういう形でこうした会議等に関わっていきたく、NGOとしても色々なネットワーク体制をしっかり作っていかうと、いま準備をしているところです。是非今後とも連携の枠組みを持っていただければ大変ありがたく思います。



島尻安伊子 沖縄・北方担当大臣兼科学技術政策担当大臣兼宇宙政策担当大臣/ JFPF 事務総長

G7 サミットに向けて、多くの連携ができました。科技大臣の会合でも、グローバルヘルスでは、アクティブエイジング、感染症のところでは顧みられない熱帯病（NTDs）が入り、女性や若者という中では、理工系女子、いわゆるリケジョの活躍も G7 伊勢志摩サミットで取り上げていただきました。

三原朝彦 JFPF 幹事

危機管理のセッションで、優秀なチリの議員と共同議長を務めました。危機管理に対応すべく、WHO も今後はもう少し現場に対応できるシステムを作ると言っていましたが、それは大切なことだと思います。国際保健規則（IHR）等に取り組もうと思っても、ジュネーブで指示を出しているだけでは、現場はなかなか動かないと思います。本部がコートジボワールやナイロビといった所であれば、車で数時間行けば現場に行くことができるのですから、WHO にもそういう気持ちがなければならぬと思います。





川田龍平 JPFP 幹事

今回、素晴らしい提言を世界の議員と一緒にまとめられ、また G7 サミットに反映され、非常に嬉しく思います。この人口問題について、日本は非常に早くから、佐藤隆先生らが国際的にも取り組んできたということ、世界的にもっとアピールしてもいいのではと思いました。

世界の中で、特にユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の問題は重要です。わたくしは心の底から日本の国民皆保険制度をなんとか守りたいと思い、ずっと活動してきました。この保健システムを世界に普及することが、日本の UHC を守ることにもなるのだというのが、今の最近の情勢だと思います。この世界に冠たる、この国民皆保険制度を守るためにも、議員外交は本当に必要だということを感じています。

牧島かれん 内閣府大臣政務官/JPFP 女性問題副部長

若者への投資が、世界各国の共通の課題になりつつあるということを感じています。議員が現場で情報を共有し、そしてそれをコミュニティに戻していくということが、国際保健の医療の分野でも大事なのではないかと思います、今後も取り組んでいきたいと思っています



赤枝恒雄 議員

私はバングラデシュで母乳育児促進運動を行っているのですが、そこで感じることは、女性が教育を受けていないために、結局育児もできない、環境のこともわからない、避妊もできないので、また子どもを産んでしまって、感染症で死んでしまうという繰り返しになっているということです。小池先生が言われた通り、保健と教育をしっかりと政治で進めていかなければならないと思います。

櫻田義孝 議員

これから日本の社会における人口問題は、やはり少子高齢化で、その対策としては子どもを産んで育てられるような環境を日本全体で作っていくことが、一番大事なのではないかと思います。経済対策なども、もちろん効果はありますが、子どもを産んで育てられる環境になれば、景気は自ずと良くなるのではないかと思います。



木村弥生 議員

事務局からは、GCPPD 宣言文が、サミット首脳宣言の約 4 分の 1（邦文で約 1 万字程度）、に関わっていたとの報告がありました。また、前回の G7 サミットまでは、首脳宣言の中で女性の問題に関して、「女性の経済的エンパワメント」という限定的な表現にとどまっていたましたが、今回の G7 伊勢志摩サミットでは、「経済的」という限定が外され、女性の健康や社会的地位の向上も含む「女性のエンパワメント」という表現が採用されました。保健分野の大きな進捗とともに、女性、若者、高齢化対策などが首脳宣言に色濃く反映されるなど、大きな成果を挙げることができました。



本会議の詳細な情報（プログラム、参加者リスト、ウェブキャスト等）は下記の専用ウェブサイトでご覧いただけます。

- ウェブサイト <http://gcppd2016.org/jp/>
- プログラム <http://gcppd2016.org/jp/program/>
- 参加者リスト http://gcppd2016.org/jp/p_list/
- ウェブキャスト http://gcppd2016.org/jp/recording_movie1/



国際人口問題議員懇談会（JFPF）事務局

（公財）アジア人口・開発協会（APDA）

TEL: 03-5405-8844

FAX: 03-5405-8845

E-mail: apda@apda.jp

Website: <http://www.apda.jp>

入会をご希望の方は、apda@apda.jp までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は apda@apda.jp までお願いいたします。